

双松会会報

第35号「双松会」通巻39号「松高北高同窓会報」通巻39号

発行 松江市奥谷町164番地 島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL: 0852-21-4888
FAX: 0852-21-4977
印刷 有限会社高浜印刷 TEL: 0852-36-9100

青春グラフィティ

Vol.12

普通科23期・理数科2期
(昭和47年卒)

卒業アルバムと還暦同窓会



山崎 徹

ここに我ら北高23期の卒業アルバムがある。このアルバムは、実は8期の米澤直行先輩(ヨネザワ写真館)と23期の有志を中心に制作された記念すべき「北高卒業アルバム第1号」である。さて、少し黄ばんだそのアルバムを開くと一瞬のうちに北高で過ごした青春時代が蘇る。表紙の次のページに見開きで載っている当時の西川津の校舎と校庭の航空写真。授業や部活、体育祭や学園祭など、青春の思い出が一杯つまった場所である。その次のページ上部には校歌が載っている。「山脈浮かびて」から始まる歌詞とともに、メロデーも素晴らしい、と今でも思う。次ページからは、当時教えていただいた先生方の懐かしい笑顔が載っており、そのあと、見開きでの全員集合写真、そして「ロー

立っただけではなく、皆に「まわし見」された。昔の顔とは全く変わっている同窓生(特に女性)の名前を当てるとか、学園祭の仮装行列の写真に写っているのは誰だとか、盛り上がったのである。まさに卒業アルバムは「魔法のアルバム」、開けばいつでも青春時代に戻れ、そこにいる友と時空を超えて語り合うこともできる。

ドレース」「体育祭」「学園祭」などの学校行事や授業風景などのスナップ写真が続く。こういう写真の中で、若いころの自分の姿を見つけないのが、また楽しいものである。最後に、当時の119ルームまでのクラスメート全員の写真が、先生方と同じく笑顔で載っている。中には格好良くポーズを決めているものもある。

松江市のホテル一畑で開催された23期全体の還暦同窓会に移る。私は卒業アルバムを持っていかなくなったのだが、さすがに特別な同窓会、大いに盛り上がった。ホテルロビーでの受付開始からすぐにあちこちに輪ができて昔話に花が咲いた。それから、まずは全員での写真撮影。160名近くが集まったうえに、すでに話が盛り上がっていたために、皆なかなか整列せずに時間がかかってしまった。そして開宴。もちろん最初の設定としてはルーム毎のテーブルになっている。開会の挨拶を庄司尚史君(5R)が行い、司会の玄行登君(5R)にマイクが渡ってから、卒業後亡くなった18名の友のために黙とうを行った。

この卒業アルバムが役に立った覚えがある。7年前私が最初に関西地区の23期同窓会に参加したとき、出席者諸君の顔と名前が一致しないことを懸念して卒業アルバムを持参したのだが、私の役に

そして現在の北高の校長から後輩たちの活躍など近況の報告があったのだが、わが23期の大きな特徴は、この校長が同期の河原一朗君(8R)であったことだ。彼の報告の中に、私が彼からの依頼で理数科の後輩諸君の東京研修修

行中に講演をしたことも入っていたのだが、こういう仕事上での同期との関係もうれいものである。そのあと、出席いただいたかつての恩師、井原泰先生、目次健司先生、野津和子先生、山中淑郎先生からご高齢にも拘わらずの元気なご挨拶が続いた。そして、竹内彰一君(9R)が、自身の還暦誕生日に年の数(60歳)だけ歩いたという面白い経験談を披露して乾杯。当日開催された毎回恒例のゴルフコンペの表彰があつて(翌日は、石見銀山・出雲大社への日帰りバスツアー)も行われた。欲談が始まった。久しぶりに会ってもルームメイトの顔はもちろん覚えていたが、他ルームのテーブルへ行くと、顔も名前もわからない人が増えてくる。やはり卒業アルバムを持って来れば良かった、とちよっぴり後悔した。話題としては、還暦ということ子供や孫の話が多かったようだ。懐かしい顔に会うとメールアドレスの交換をしたり、この日見当たらぬ同期の話題になったり、この還暦同窓会をきっかけにして今後コミュニケーションをとろうという人たちがたくさんいた。そしてかなり酔いが回ってきたときに、司会の指名により何人かからの近況報告があった。私も指名され、会社と故郷島根両方への「ダブル恩返し」として、会社の地域貢献型新サービス「スマホを使った観光音声ガイドサービス」を島根の市町村に

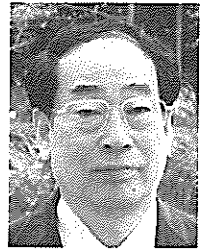


還暦同窓会

導入支援していることを紹介した。そばで聞いていらつした目次先生も松江城の観光ガイドをしておられるとのことで、堅い握手をしたことを覚えている。このあたりから、私の記憶が段々薄れていくのだが、各ルーム毎に、そして色々な部やサークル毎に壇上が上がって記念撮影したあと、あの素晴らしい校歌を皆で歌い、神田一男君(6R)の「次回3年後の開催宣言」の閉会挨拶でお開きとなった(ようである)。

この後、ほとんどのメンバーがタクシーで2次会の貸切会場である「市内某所」へ行き、新しいテーブルメンバーとまた大騒ぎ。最後は有志による3次会で、深夜までやっているスナックに行つて管をまいた。いやあ、実に楽しかった。

還暦で生まれ変わった我ら23期、これからの新たな日々を充実させるためにも、北高時代にもう一度戻ってみよう。「魔法のアルバム」を開けばそれはできるし、同窓会で集えばそこに友はいる。



ごあいさつ

会長 庄司 肇

双松会の皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

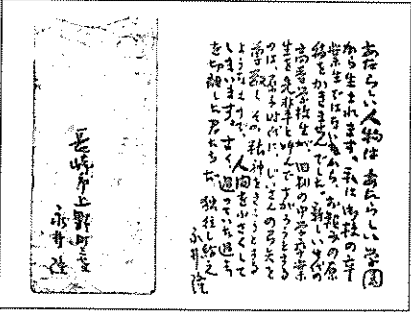
さる7月13日には、本年度の役員会（総会に代わる）を開催し、数々の議案を審議いただきました。出席くださった役員の皆様には厚くお礼申し上げます。

さて、平成22年に植え替えをしました双松の新生松の一本が枯れていましたので、一昨年に、新生松選定委員会を開き、委員会の方々により、校地の周辺に残していました双松の系統を引く松の中から選び出し、根廻しをしていました松を4月12日に台上に植えました。その際、田原神社（通称春日さん）の宮司に、今後無事育つよう御祓いをしていただきました。大きく育つていきますようお願いいたします。

これを機に、かねがねご意見をいただいていた新生松等の保護、育成のための募金（北高の緑を守る基金）をお願いすることといたしました。新生松はもとより校舎周辺の緑を整え、教育環境を守っていききたいと思っております。ご協力をよろしくお願いたします。さて、永らく顧問を勤めて

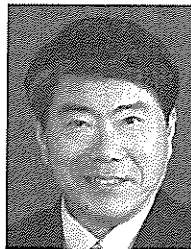
いただいたおりました兼折博氏が去る3月20日に99歳で逝去されました。兼折博顧問は、母校の旧制松江中学、新制松江高校、松江北高で教諭として教鞭を執られ、昭和43年から校長として7年間務められました。会員の皆様の中にも生徒時代に薫陶を受けた人が多数いらつしやると思えます。平成6年から3年間は双松会の会長としてご指導いただきました。松江北高、双松会に貢献いただいたことは大なるものがあります。

ご冥福をお祈りしたいと思います。ところで、毎年、数名の方から資料室（芝蘭室）に貴重な資料を提供いただいております。たとえば、高校3期の



永井隆氏からの手紙（永井隆記念館所蔵）

T氏からは数回にわたりご寄贈をいただきました。そのなかにも、教育制度の変更により旧制中学から新制高校になるとき新聞部の創設にかかわったその時の資料があります。そこに注目するものがありました。松高新聞第5号で特集の一つとして、「赤山（松江



「質実剛健」
新たな時代に向かつて

校長 泉 雄二郎

前 河原一朗校長の後任として4月に着任いたしました泉雄二郎です。私、北高26期（理科科5期）（昭和50年3月卒）です。生まれは北堀町（新橋）です。赤山は幼少期の遊び場、中学校は松江一中を卒業しておりました。赤山に通っておりまして。二本松には大変親しみを持っております。さて、1学期は、こんなことを生徒に語りました。

「学びは、情報を取り入れる感覚器、取り入れた情報を蓄積・加工・処理する脳、考えたことを表現・出力するための筋肉によって支えられる。感覚器を通して情報を脳に取り込む人間には、出力系としては筋肉しか備わっていない。話すこと、書くこと、表情に表すこと、みな、筋肉が使われる。情報を取り込む過程は「文」、筋肉を使って出力する過程は「武」、文と武があつて、本物の学びとなる。「質実剛健」と「文武両道」は、ほぼ同意と解釈されているが、その真意は、このことにある。」

「不断の勉強により知識を増やすことだけで終わるのは本物の学びではない。獲得した知識を使うこと、知識を役立てる。他者の幸せにつなげる。ことこそが本物の学びである。本物の学びの積み重ねが、困難にあつても、そこから逃げない、立ち向かう姿勢を培う

中学」の卒業生の方々からのメッセージを依頼しており、永井隆氏からのものがあつたのです。一応内容は断り状であつたけれども、後輩に宛てたアドバイスとしてあえて掲載したということです。写真は永井隆氏からの手紙である（永井隆記念館所蔵）。

3月に兼折博先生が逝去されました。兼折先生の北高校長としての最後の3年は私の高校3年間と重なります。先生は当時、次のようなメッセージを発信しておられます。

「現代にも、ごく少数ながら、新しいタイプの若者たちの出現しつつあることも、見落としてはならぬところである。あらゆる余分なものをかなぐり捨てて、最も端的に、最も率直に、人間世界の、いちばん問題をはらむところに飛び込んで、体当たりでこれに取り組んでゆく。「質実剛健」という古めかしい言葉を現代風に脱皮させたなら、こうもなるるか、と思われる力に充ちた、まっとうな若者たち。新しいもの、次の時代は、このような若者によって創られてゆくのかも知れない。」（49年度生徒会誌巻頭言）

平成28年度、学校は創立140周年を迎えます。松江中学最後の卒業生は69期、平成28年度に卒業する現1年生は新制68期。旧制中学約70年の歴史に新制高校の歴史が追いついた、140周年は次の時代へ踏み出す年ということになりました。 「質実剛健」あるいは「双松」の意味も、兼折先生が40年前に予言しておられる通り、新たな意味を吹き込まねばならないとき、と考えております。どうか、双松会員の皆様には、厳しく、温かく、現役を支援していただきたく、切にお願い申し上げます。

特集

太宰治の岳父

石原初太郎

石原 亨

(松江北高旧職員
昭和48年度、56年度在職)

松江中学校第17代校長石原初太郎(写真①明治3(1870)昭和6(1931)の4女美知子(明治45(1912)平成9(1997)が小説家の太宰治(本名津島修治 明治42(1909)昭和23(1948)と結婚式を挙げたのは昭和14年1月です。以下これらに関するお話を許された紙数の中で述べてみたいと思います。



写真① 石原初太郎校長

石原校長の松江中学での業績は『松江北高等学校百年史』にも詳しく触れてはありますが、概略を述べますと、明治35年秋に教科書採択を巡る贈収賄事件が発覚、第16代の秋山校長も翌36年1月突然の休職となります。その後任として官命を受けて早稲田大学の講師から転じたのが山梨県出身の石原校長。36年2月18日の任命、3月4日着任、28日には第16回目の卒業式で112名を送り出しています。そして39年11月、突然、浜田の県立第二中学校転勤という異例

の発令が下ります。えっ、これは左遷…と思いがちですが、さにあらず、深刻な事情があったのです。

11月17日の夜、末次本町の臨水亭で石原校長の送別会がありました。当時の山陰新聞は「出席者は各官衙高等官代議士県立各學校長同職員県郡學事関係者市内紳士紳商等無慮百余名」とその盛大さを報じています。そして発起人総代の本間事務官が述べた挨拶は「浜田に於ける第二中学校の現下の事情は実にいふに忍びざるものあり。経験あり声望ある石原君に懇請してその手腕にまたんと欲せしはすでに久しき以前にあり、幸にして君の甘諾を得しは県当局者の極めて満足するところ」と異例の人事の核心に触れています。浜田中学が緊急を要した実情を『浜田高等学校百年史』で知ることが出来ます。要約すれば次のような内容です。

明治39年8月23日の山陰新聞に「公開状 土田校長に与ふ白面郎」なる2段組の記事が載ります。その内容は生徒に淫逸の風が蔓延し、高等の學校への進学の実が上がらないのは教師に人を得ないからだと校長の指導力の無さを厳しく糾弾するものです。土田校長も「答白面郎書」と題して反論しますが10月8日付で休職に追い込まれます。百年史の筆者は「公開状は県当局者と新聞社との馴れ合いではないかとの疑いも出てくる」と推測しています。

の異例な抜擢人事だったので。不退転の決意で着任した浜田中学第7代石原初太郎校長は行啓行事を成功裡に終えると、大正6年に山形県立米沢中学に転任するまでの10年5カ月の長きにわたって校長を務めます。浜田時代の業績については紙数の関係で詳細を省略しますが大正2年と4年には生徒が同盟休校事件を引き起こし新聞を賑わせます。特に大正4年の同盟休校は7名の退学者を出す大事件となり、連日のように山陰新聞に報じられて石原校長も新聞で厳しく非難されています。

米沢中学に赴任してからの石原校長には情熱の驕りが見ええます。米沢中学は上杉鷹山が藩学として開校した興讓館の「興讓の精神」(興讓とは「大学」の中の「一家仁一国興仁、一家讓一国興讓」による)を受け継ぐ由緒ある名門校です。現在は米沢興讓館高校として山形県有数の進学校です。高校に残る校務日誌には気になる記述が残っています。石原校長が両親看病のために帰省を重ねていくことです。大正6年6月には父の看病に11日間、翌8年4月には母の看病で10日間、450km近く離れた甲府市水門町の実家に帰省しています。

両親看病という理由はあっても校長という職責を放棄するよくな長期休暇はどんなものでしょう。果たして6月20日には辞任します。任期半ばの退職には石原校長の大きな決断があったかも知れません。石原校長のやりたかったことは以後の人生にあったかも知れません。49歳で校長職を離れるとその年大正8年11月広島高等師範学校(現広島大学) 地質学教室

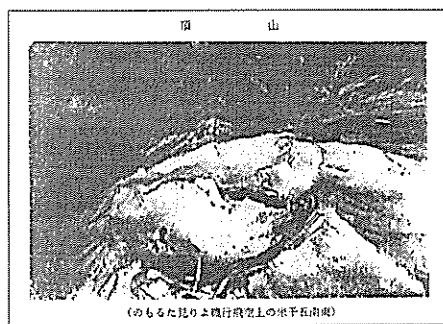
講師に着任、3年ばかり勤めた後、大正12年に山梨県嘱託に就任、富士山を地質学的側面から考察して何冊かの研究書を上梓していますが、昭和6年2月25日に脳卒中で急逝しました。61歳でした。山梨県では観光開発に業績を残した偉大な地質学者として県史に顕彰されています。

石原美知子は浜田市を本籍として明治45年に生まれました。太宰治が井伏鱒二の紹介で彼女と見合いをするのは昭和13年の秋のこと。その件は初期の代表作『富嶽百景』に描かれています。

『母堂』に迎へられて客間に通され、挨拶して、そのうちに娘さんも出てきて、私は、娘さんの顔を見なかつた。井伏氏と母堂とは、おとな同士の、よもやま話をして、ふと、井伏氏が、「おや富士」と呟いて、私の背後の長押を見あげた。私も、からだを捻じ曲げて、うしろの長押を見上げた。富士山頂大噴火口の鳥瞰図が、額縁にいれられて、かけられてゐた。まっしろい睡蓮の花に似てゐた。私は、それを見とどけ、また、ゆつくりからだを捻じ戻すとき、娘さんを、ちらと見た。きめた。多少の困難があつても、この人と結婚したいものだと思つた。あの富士は、ありがたかつた。

ここに出てくる富士山頂大噴火口の鳥瞰図(写真②)は昭和3年に古今書院から発行された『富士の研究』中の石原初太郎執筆部分にも載つていて、「東南五千米の上空飛行機上より見たるもの」のキャプションがついています。額縁の絵がこれに間違いないかつたことをアメリカ在住の石原明氏(美知子の実弟)から確認を得ています。

『富嶽百景』には冒頭部分を始め数カ所に石原初太郎著「富士山の自然界」(大正15 山梨県内務部) から引用したと思われるところが指摘することが出来ますが紙数の関係で省略します。



写真② 富士山頂大噴火口の鳥瞰図

太宰が結婚した年に発表した短編小説に『葉桜と魔笛』があります。この小説は太宰が得意とした女性独白体を用い、老夫人が35年前の出来事を語るという形式をとっており、内容は重層的な虚構の上に構成されていて、読者は二度三度どんでん返しを食わされる仕掛けになった作品です。

舞台は鳥根県の日本海に沿った人口2万人余りの城下町。父はその町の中学校校長。6年目に松江の中学校に転任するまでその町の、町はずれのお寺の離れ座敷に年頃の「私」と腎臓結核を患い、医者から見放された妹と3人で住んでいます。その妹に届いた一通の手紙から話は進展します。M・Tという貧しい歌人からのもので、それは妹を裏切った罪滅ぼしに、これから毎日歌を送ると共に堀の外で

口笛を吹いて慰めてあげるとい
う内容です。

これを「私」に読ませた妹は
「ありがと、姉さん、これ、姉
さんが書いたのね。」と言います。
ここで読者は「私」から意外
なうち明け話を聞かれます。

「私」は妹のダンスから30通ば
かりのM・Tからの手紙を発見
し、熱烈な恋愛の果てに捨てら
れた経緯を盗み読みします。そ
れを知って「私」はM・T名義
の架空の手紙を書いて、哀れな
妹を慰めたつもりだったのです。
妹に見破られてすっかり恥じ
いつている「私」に、意外にも
妹は「姉さん、心配なさらなく
てもいいのよ。」と微笑みかけま
す。今度は妹から思いがけない
告白がなされます。M・Tの手
紙というのは、実は妹の一人芝
居で、M・Tは架空の人物だっ
たのです。

厳格な教育者の、しかも母親
不在の家庭で成長した年頃の娘
たちの胸にくすぶる美しい青春
へのやるせない憧憬と閉塞され
た現実が、M・Tとの熱烈な恋
愛を仮構する妹の言葉を通して
語られます。

抱き合う姉妹の耳へ、突然、
軍艦マーチの口笛が塙の外から
流れてきます。「私」の書いた架
空の手紙が現実になったのです。
口笛の主は誰だったか作者は書
いていません。読者は厳格な父
の精一杯の演技だったのだと想
像するかも知れません。

美知子夫人の書いた『増補改
訂版 回想の太宰治』(平成9
人文書院)の中に次のような証
言があります。

『葉桜と魔笛』は、私の母か
ら聞いた話がヒントになってい

る。私の一家は日露戦争の頃山
陰に住んでいた。松江で母は日
本海海戦の大砲の轟きを聞いた
のである。発表後この小説のこ
とを井伏先生がほめてくださっ
たそうで太宰はふしぎだ、意外
だと言っていた。

『葉桜と魔笛』で唯一モデルが
あるのは石原初太郎です。彼が
実像に近いものであったかどう
か。太宰が、会ったこともない
彼を造形するにあたっては、く
ら子母堂と美知子夫人の思い出
話がヒントになっているのです。

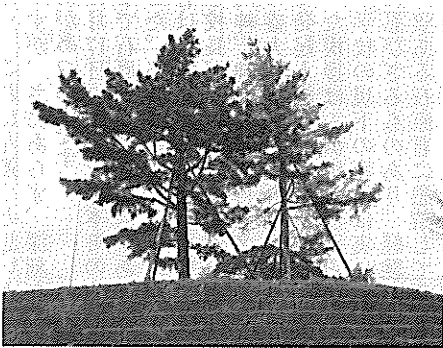
東郷平八郎提督率いる日本連
合艦隊とロシアバルチック艦隊
との決戦は明治38年5月27日か
ら28日にかけてで、日本の圧倒
的勝利でした。戦場は島根沖で
したから松江市民も地鳴りのよ
うなかなかな轟きを耳にしてい
たことは当時の新聞でも知るこ
とができます。松江中学の『学
友会雑誌』によれば、石原校長
は5月22日に学事視察として上
京し、6月27日に帰校している
ので、砲声を聞いていません。

事務局だより

一、二本松の植樹について

4月12日に、新生松の植樹
祭を行いました。植樹しまし
たのは、昨年「新生松の会」
常任幹事会で移植にふさわし
いと選定された松(校門付近
で育成していた松)です。

当日は、好天に恵まれ、松
本前双松会会長、庄司会長、
金平幹事長の御参加のもと、
柳足立農園社長の指揮により
無事植樹が行われ、工事後に
は田原神社宮司により植樹祭
(お祓い)をしていただきました。
二本松が若々しく復活した
姿に、感動を覚えることもも
に、末永く松江北高校を見
守ってくれるようお願いして
おります。



近畿双松会の総会
平成26年12月7日(日)

東京双松会の総会
平成26年10月18日(土)
於アルカディア市ヶ谷

三、各地区の双松会の動向に
ついて

会報発刊に関わる諸経費へ
の援助として、27名の方か
ら計13万5480円の浄財
を賜りました。厚くお礼申
しあげます。

近畿双松会より10万円
理数科(H23)より
7503円



23期伊達様より寄付を受け取る河原前校長

二、お礼

次の方々より寄付金を頂戴
いたしました。ご披露に併
せ厚くお礼申し上げます。

- 13期より10万円
- 15期より3万円
- 16期より5万円
- 23期より16万7000円
- 43期より10万3020円
- 65期より65円

於中央電気倶楽部

〇広島双松会の総会

平成26年11月8日(土)
於広島ダイヤモンドホテル

〇米子双松会の総会

平成27年2月中
(詳細は後日)

四、名簿「双松」について

双松会員名簿(平成23年版)の
残部があります。ご購入なさりた
い方は、事務局までご連絡くださ
い。1冊5千円です。

五、同窓会館資料室について

北高敷地内の同窓会館(起雲
館)に、松江中学校創立以降の資
料が展示されています。さらに充
実した資料室にするために、資料
の提供をして下さる方は、ご一報
下さい。

〇会報助成金会計の報告

平成25年度 会報編集助成金会計決算書

| | |
|------|------------|
| 収入総額 | 5,291,156円 |
| 支出総額 | 1,500,000円 |
| 残 額 | 3,791,156円 |

| 費 目 | 金 額 | 備 考 |
|-----|-----------|---------------------|
| 繰越金 | 5,154,640 | 前年度繰越 |
| 援助金 | 135,480 | 平成25年度分(振込21件、現金6件) |
| 雑収入 | 1,036 | 預金利息 |
| 合 計 | 5,291,156 | |

| 費 目 | 金 額 | 備 考 |
|--------|-----------|------------------|
| 本会計へ繰入 | 1,500,000 | 平成25年度会報発行補助金として |
| 合 計 | 1,500,000 | |

双松会地区だよ

東京双松会

東京双松会 事務局長 中村 康一(高16期)

このところ、ホームページを通しての入会希望や問い合わせが増えてきています。

立ち上げから6年、徐々に浸透しつつあると感じています。本年7月現在の訪問者数は、延べ1万9千名。今春より新たにスタートしたゴルフコンペの報告、各種イベント案内など盛りだくさんです。是非一度、アクセスしてみてください。(http://www.tokyo-soshikai.org)

昨年の講演、野崎保氏「自然災害と地質リスクの軽減」の抄録も、ホームページ内の「第58回東京双松会総会報告」からご覧いただけます。なお、本年度の講演は、田平武氏にアルツハイマー病についてお話しして頂きます。双松会には、第一線で活躍されている多くの会員がいらっしゃいます。これからは、政治経済、文化から医療、科学技術まで様々な分野の講演を企画したいと考えています。

今年の東京双松会総会は第49回となります。来年は、記念すべき設立50周年となります。事務局では、「50周年記念総会」の開催に向けて検討を始めています。又、昨年7月にスタートした新事務所も順調に機能しております。デジタル時代にマッチするような会員登録システム、広報活動など鋭意検討中です。

どうか、お仲間をお誘いあわせのうえ、東京双松会に一人でも多くの方が参加されますよう期待しています。

平成26年度総会・懇親会案内
期日：10月18日(土)正午から午後

後3時半頃
会場：アルカディア市ヶ谷(私学会館) JR/地下鉄市ヶ谷駅 徒歩2分

電話：03-3261-9221
講演：順天堂大学大学院教授 医学博士 田平武氏 (北高39年・15期卒)

仮題「アルツハイマー病の予防と治療の最新情報」

開会先：東京双松会事務局 千代田区二番町11-3「中央印刷事務設備内」 03-3265-4858

近畿双松会

近畿双松会 事務局長 松本 耕司(高16期)

昨年度は当会が昭和33年に戦後の再開を果たして55周年の記念の年でしたが、記念総会には153名の方がご参加いただき、郷土産品の大福引き大会を行うなど、有意義な懇親の場を持ちました。卒業生全員の会員とする新会則も順調に機能し、この春には充実した「55周年記念会報」も発行することができ、喜んでいました。

本年は次の60周年に向けて贈りと活動を続けていく一年目となりますが、母校と郷土の発展を願い、なごやかに展開してまいります。

近畿二府四県にご在住の方で、ご案内の届いていない皆様、また前記の記念会報をご希望の皆様は、下記までご連絡ください。報告をくださいますようお願いいたします。

本年度の活動骨子は以下のとおりです。奮ってご参加ください。
総会懇親会
期日：12月7日(日) 正午～午後4時

会場：中央電気倶楽部(大阪市) (10月に詳細をご案内)

その他の行事
ゴルフ、文楽鑑賞、歴史ウォーキング、里山ハイキング、落語

鑑賞、年会報発行。お問い合わせ先
事務局長 松本耕司宛
携帯：090-6609-8817

メール：k-natsumoto@hi-ho.ne.jp
「近畿双松会HP」から各参加お申し込みもできます。
http://www.kinki-soshikai.org

米子双松会

米子双松会 事務局長 中西 秀夫(高15期)

2月23日、25年度総会を庄司肇双松会会長、金平憲幹理事長、河原一期北高校長、才木克宏校内幹事の御臨席を賜り開催しました。今年の講演は大阪から同窓の和田亮介氏(松江市宍道町出身・松高1期)をお迎えし、「山陰(中海) えもんでおめでなし」と題して、船場商人の基本的心得等について、ユーモアを交えたお話を、人間としての基本的心得に通じるものと感銘を受けながら伺いました。

また、「山陰はひとつ、城がある都市は元気があり、誇りがある。松江と並んで米子にも米子城を再建すれば、都市に品格が生まれるだけでなく、観光の条件もすべてそろう」と指摘をいただきました。

なお、講演会と懇親会には、東部双松会(安来)からも10名の参加をいただき盛会となりました。

7月6日、恒例の納涼会を米子全日空ホテルにおいて開催し、空撮による米子、境港、美保関のDVDを観たあと、斉藤藤会長の羽織袴姿の音頭により、「暑い暑いみんなが言うが、ヨイヨイ暑さ吹き飛ばす双松会、ヨイヨイヨイ、デッカカンショ」と一同でデカンショ節を歌い、松高・北高時代の学園祭ファイヤーストームを想い出しながら暑氣払いをしました。これで今年の暑さも乗り切れそうです。

ゴルフ部会は毎月大山の3ゴルフ場をローテーションで楽しいコンペを行っています。

旅行部会は10月に同窓生の住まいで、地方建築史上貴重な建物である、江戸時代後期富豪の屋敷を拝見し、大根島の由志園にて懇親会を予定しています。

今後とも楽しい活気のある米子双松会となるよう努力したいと思っておりますので、どうか、同窓お誘い合わせて、米子双松会に1人でも多くの方が入会されますようよろしくお願いいたします。

連絡先

米子双松会事務局
〒689-3402
米子市淀江町淀江771
TEL&FAX 0859-56-2315 中西秀夫



広島双松会

広島双松会 幹事長 石原 通弘(13期)

平成26年11月に第8回総会を双松会会長庄司肇様及び北高校長河

原一期様、教諭吉岡曉美様にご臨席賜り開催し、後述の活動計画等を決定しました。また、島根県広島事務所長石川厚志様より島根県の最新情報や出雲大社の遷宮にかかわるお話を賜り、総会に華を添えていただきました。

10年目の区切りの総会も近づき、本年度は会の更なる活性化を図るため、役員会で対策を検討していきます。

設立以来同級生や職域を通じて口コミで情報を伝達することになっていますが、十分な周知が出来ていません。会報をご覧いただければ、事務局へご連絡いただければ喜びます。

一、今年の活動計画

今年の活動は恒例の総会・懇親会に、納涼親睦会1回、ゴルフコンペ2回程度開催して会員の親睦を深めます。

二、第9回総会・懇親会

日時 平成26年11月8日(土) 16時～19時
場所 広島ダイヤモンドホテル 広島市西区観音新町2-4-6

三、その他の行事予定

①納涼親睦会
日時 平成26年7月30日(水)
場所 そごう広島店本館「マグムシエンロン」(広島市中区)

②親睦ゴルフコンペ

日時 平成26年9月27日(土)
場所 富島志和カンツリー倶楽部 (東広島市志和町)

四、連絡先

幹事長 石原通弘
〒739-1742
広島市安佐北区亀崎二丁目29番26号
TEL&FAX 082-842-11416
携帯電話 090-9507-2312

E-Mail: ishihar2826@n.email.ne.jp

通信制だより

通信制双松会会員各位 殿

会長 野津 裕

猛暑の砌、会員の皆様におかれましてはご健勝にお過ごしのことと存じます。

さて、私達が学びました松江北高通信制課程が24年度をもって閉課程となりましたことは報道ならびに、双松会会報ですでご承知のことと存じます。

閉課程後も同窓会は「通信制双松会」と改称して平成25年3月発足式を行い活動を継続することとなりました。その後同窓会の事務、書類の引き継ぎ業務が実道高校より滞りなく終了しましたので、会員の皆様にご報告をいたします。尚、通信制双松会の総会は毎年発行されます「双松会会報」でご案

平成25年度 決算報告

松江北高校通信制同窓会

収入総額 921,748円
支出総額 125,179円
残 額 796,569円

収入の部 (単位:円)

Table with 6 columns: 款, 項, 25年度予算(A), 25年度決算(B), 増減(B-A), 備考. Rows include 繰越金, 会費, 雑収入, 合計.

支出の部 (単位:円)

Table with 6 columns: 款, 項, 25年度予算(A), 25年度決算(B), 増減(B-A), 備考. Rows include 会議費, 役員会, 監査会, 事業費, 事務費, 予備費, 合計.

通信制双松会役員名簿

内いたします。決算書にあり残額の使用につきましては、役員会で協議決定し報告致します。

- 役員: 会長 野津 裕, 副会長 中野 津 氏, 幹事: 坂本 育 晴, 監事: 竹海 孝 子, 狩野 惠 美 子, 田原 剛 史, 福原 克 志, 加納 昭 則, 伊藤 健 悟, 花田 廣 治, 瀬崎 鶴 夫, 奥谷 寿 久, 坂本 育 穂, 中野 津 実, 野津 裕

通信制双松会 会則

- 第1条 本会は通信制双松会と云い、事務局を会長宅に置く。
第2条 本会は島根県立松江北高等学校通信教育部、島根県立松江北高等学校通信制課程卒業生を正会員とし、島根県立浜田高等学校通信教育部卒業生を準会員とする。
第3条 本会は、会員の親睦を目的とする。
第4条 本会は、原則として、1年に1回総会並びに懇親会を行う。
第5条 総会において行う事項は次のとおりとする。
1. 会務と会計に関する審議を行う。
2. その他必要事項の協議。
第6条 役員会は役員をもって組織し、会長が必要に応じて招集し、必要事項の協議をする。役員は以下の役員とし、任期は2年とする。但し再任を妨げない。
1. 会長 1名 2. 副会長 若干名
3. 幹事 若干名 4. 監事 若干名
5. 会計 1名
第7条 会長、副会長及び監事は総会において会員中より選出し、幹事、および会計は会長、副会長が相談の上これを委嘱する。
第8条 会長は本会の会務を総括する。副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はこれを代行する。
第9条 会計の監査は監事がこれを行い総会又は役員会において報告する。
第10条 本会の会計年度は毎年4月1日より翌年の3月31日までとする。
第11条 本会の経費は次の収入をもってこれにあてる。
1. 寄付
2. その他必要に応じて徴収する
第12条
1. 平成25年4月1日より実施 (通信制閉校により改訂)

北高生の活躍

島根県高等学校 総合体育大会結果報告

5月下旬から6月上旬にかけて、第52回島根県高等学校総合体育大会が行われました。結果は総合第4位(男子第4位、女子第4位)でしたが、戦いが明けた6月9日の総体報告会では、各部キャプテンの言葉から、全力を出し切ったことがよく伝わってきました。そんな中で、激しい県予選を勝ち抜き、7月下旬から8月上旬にかけて南関東で行われた全国高等学校総合体育大会に出場したチーム・団体を紹介します。

陸上競技部

- 男子
100m (予選敗退) 3年 吾郷 陽
200m (予選敗退) 3年 吾郷 陽
400mリレー (予選敗退) 3年 吾郷 陽
2年 佐々木 栄 陽
1年 金山 陽 平
女子
5000mW (予選敗退) 3年 武田 悠 真
400m (準決勝進出) 1年 福田 翔 子

800m (準決勝進出)

女子ボート部
舵手付きクオドルブル
(準々決勝進出)

男子バドミントン部
団体(一回戦敗退)

- 3年 山崎竜太郎
3年 山本 航輝
3年 吉岡 国晃
3年 長野 圭佑
3年 高木 良輔
1年 野々村 鴻
1年 水川 雅斗
3年 山崎竜太郎(一回戦敗退)
3年 山本 航輝(一回戦敗退)
3年 山崎竜太郎
3年 山崎竜太郎

女子テニス部
シングルス(一回戦敗退)

- 2年 壺倉 花

弓道部
女子団体戦(ベスト16)

- 3年 今田 実花
2年 野田真優子
3年 井上 蓮
3年 景山奈那美
3年 谷山 瑠璃
3年 森山 祐希

女子個人戦(決勝進出)

女子登山部
松江北A

- 3年 布野かえで
3年 野津 彩加
3年 小室双美夏
3年 水津 彩夏
2年 岡本 美佑

文化部の活躍

文化部についても、5月下旬から6月上旬にかけて島根県大会が行われました。大会を勝ち抜き、8月に茨城で開催された、全国高等学校総合文化祭に出場した部を紹介し

囲碁・将棋部

- 将棋部門 男子団体
3年 長山 海澄
1年 来海 裕晃
1年 角田 希

百人一首かるた部

小倉百人一首かるた部門

美術部

- 3年 福村一之進

その他の全国大会

放送部

NHK杯全国高校放送コンテスト

第13回国際高校生フォーラム

平成26年度 役員会総会報告

7月13日(日)15時から、「サンラポーむらくも」において役員会総会が開催された。61名が出席し、会長を議長として協議・報告がなされた。

- 一、平成25年度会務報告(承認)
二、決算報告、監査報告(承認)
三、平成26年度会務計画案(双松の植樹について)(承認)
四、平成26年度予算案(承認)
五、役員人事について(承認)
六、寄付のお願いについて(承認)
七、その他(百四十周年記念事業について)

平成26年度双松会役員

Table with columns for position (President, Vice President, etc.), name, and affiliation. Includes names like 金榮修, 松本隆志, etc.

平成25年度 双松会会計決算書

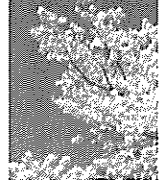
Financial statement table showing income, expenses, and assets for the 25th fiscal year.

監表報告
平成26年度双松会会計について、総務・経務課長等を監査した結果、適切に処理されていることを認めます。

平成26年度 双松会会計予算書(案)

Budget statement table for the 26th fiscal year, categorized by income and expenses.

本年度の進路状況



進路指導部長 大屋 和彦

今年度の国公立大への志願者総数は、前年から約5千人減り、志願倍率は前年の4.84倍から、4.78倍となりました。

国公立志願者減の主な原因と考えられるのは、受験人口そのものの減少や、センター試験の難化により国公立大学への出願そのものを見送ったケース、また難関国立大や医学科の後期日程廃止による後期の志願者減少などです。しかしながら、「大学全入」と言われた時代から「大学淘汰」の時代を迎え、国公立志向、難関大志向は決して弱まっています。

受験生の志望学部や系統別の傾向としては「理高文低」。「資格志向」の流れに大きな変化はなく、理系では薬学で志願者が増加、医療系の人気も依然として高い状態です。2010年以降人気だった教員養成系は最近志願者減少の傾向を示しています。人文・法・経済系も近年の減少傾向が続いています。

本校生徒の国公立大の合格者は延べ202名。昨年の結果をわずかですが上回りました。

難関大学について言えば、東京大学、京都大学、大阪大学の合格者は計14名。難関大の総計は36名という結果にとどまりました。難関大では特に大阪大学や九州大学、中国地方では、岡山大学や鳥取大学が厳しい結果となりました。

また、国公立の医学部医学科の合格者は、7名と例年をやや下回る数字となりました。

昨年に続いて、センター試験の国語の難化があり、また、新教育課程による入試を控えて、全国の受験生の志望動向も昨年とはまた異なる様相を示していました。特に前期難関受験者の後期ブロック大への流入、前期ブロック大受験者の後期地方大への流入は昨年以上に顕著に見られた傾向です。

今、入試制度のみならず、大学そのものがグローバル化

のうねりと共に大きな変化を遂げようとしています。北高の生徒諸君もこうした激動の時代の中で、本当の意味での生きる力が求められていると思います。

現実の社会で求められる資質は、まず「コミュニケーション能力」そして「挫折に負けないたくましさ」や「あきらめない粘り強さ」さらには、多様な価値観と激しい社会の変化に対応するための「柔軟性」です。

そして何よりもこれからの時代では、知識ベースの学習だけでなく「学び方」を学ぶこと、そして学びそのものを継続していくこと、まさに「生涯に渡って学び続けること」が求められています。

学ぶためには目的が必要で、何のために学ぶのかが整理されていない限り、学び続けることはできません。今、様々な場面で生徒に対して伝えていきたいと考えていることは、個々の目標はどうあれ、北高の生徒には「社会にどう貢献するか」を自らの方向性を模索する際の指標にして欲しいということなのです。

「やらされる学習」でなく、どんな形であれ「世のため人のために自分の力を尽くす」

そうした熱い思いを持って自ら道を切り開きながら歩んで行って欲しいと願っています。

北高での授業、そして部活動や生徒会活動をはじめとするあらゆる場面にその力を培う機会がある、と私は信じています。

今年北高を巣立った諸君が諸先輩方と同様に、社会に貢献できる人材として大きく成長してくれることを願ってやみません。

進路状況

平成26年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数(平成26年4月集計)

| 卒業生 | 平成24年3月 | | | 平成25年3月 | | | 平成26年3月 | | |
|------|---------|-----|-----|---------|-----|-----|---------|-----|-----|
| | 現 | 卒 | 計 | 現 | 卒 | 計 | 現 | 卒 | 計 |
| 国立大 | 145 | 40 | 185 | 127 | 38 | 165 | 128 | 46 | 174 |
| 公立大 | 22 | 6 | 28 | 25 | 6 | 31 | 22 | 6 | 28 |
| 私立大 | 233 | 57 | 290 | 179 | 106 | 285 | 221 | 128 | 349 |
| 短期大 | 36 | 1 | 37 | 43 | 2 | 45 | 29 | 2 | 31 |
| 専門学校 | 19 | | 19 | 13 | | 13 | 20 | | 20 |
| 就職 | 1 | | 1 | 2 | | 2 | 3 | | 3 |
| 合計 | 456 | 104 | 560 | 389 | 152 | 541 | 423 | 182 | 605 |
| クラス数 | 8クラス | | | 8クラス | | | 8クラス | | |

編集後記

昨年度末まで、北高敷地の一部で「根廻し」が行われていた新しい松が、4月12日に校庭の台座に移植され、しばらく1本だけのさびしい状態だった双松が復活しました。北高の伝統を受け継ぐ新しい松として、長い歴史を刻んでくれます。

泉校長先生のあいさつにもありますように、創立140周年が再来年、平成28年に迫ってきました。その年に3年生となる現1年生が高校68期となりますが、旧制松江中学の卒業生が69期までおられますので、ようやく新制高校の歴史が旧制中学の歴史に追いつく年でもあります。校内でも今年度より140周年事業に向けての準備を始めています。

おりしも、数年がかりで分割して行われてきた校舎のリフレッシュ工事も7月に終了し、赤山校舎移転以降の汚れが一掃されました。新しい双松、きれいになった校舎、そして整備が進む起雲館の資料室を、ぜひ一度お訪ねください。(土、日は休館です)